ISSN 1341-6820

Nagoya Urban Institute News Letter

ニュースレター

名古屋都市センター

2011.10 vol.89

大正ロマンの文化が香る「文化のみち二葉館」(旧川上貞奴邸)

Contents

[特集] “もっと語りたくなるまち”をめざして「名古屋市歴史まちづくり戦略」の取り組み 1〜3
PERSON 4
まちづくり助成団体紹介 5
名古屋都市センター研究成果 6〜7
まちづくり来ぶらり 8
なごやのまち今昔 9
活動報告 10〜11
私のお気に入りの場所 11
お知らせ 12

[特集]

“もっと語りたくなるまち”をめざして
「名古屋市歴史まちづくり戦略」の取り組み

中央が焼失前の名古屋城、左が旧東海道の熱田・七里の渡し場跡、右がノリタケの森(旧日本陶器製土工場)

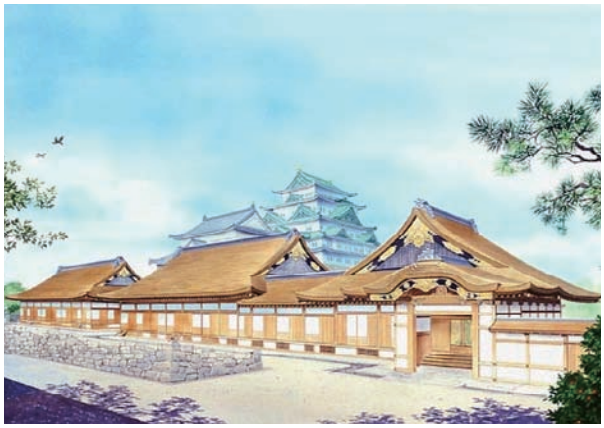
名古屋都市センターで行われたパネル展「名古屋の歴史まちづくり」

人・まち・歴史をつなぐ、新しい時代のまちづくり

名古屋は、熱田の杜から清須越し、近代産業都市としての発展、戦災からの復興と幾多の歴史を経た都市です。この歴史の流れを尊重したまちづくりを進め、世代を超えてまちの歴史を紡ぎ、名古屋市民のだれもが、自分たちのまちの歴史に親しみ、誇りを持ち、人に語りたくなる———そんなまちづくりに、名古屋市が取り組んでいます。

［特集］“もっと語りたくなるまち”をめざして

熱田の杜



名古屋城本丸御殿の復元イメージ図

名古屋の旧城下町にある四間道の屋根神様

旧東海道、有松の町並み

成熟社会を迎え、まちづくりに大きな転機

名古屋市は、戦災により多くの市域を焼失したものの、土地区画整理事業をはじめとする大胆な都市計画により、めざましい復興を遂げました。その後も、社会基盤整備と都市機能の充実を目指したまちづくりは、さらに進行しています。

しかし、成熟社会を迎え、まちづくりに対する市民意識は、利便性や機能性の追求から、ゆとり、深み、感性が重視されるようになりました。また、人口減少やグローバル化が進む社会潮流の中で、都市の魅力の創出による都市間競争力の強化と交流人口の増加が求められており、都市のアイデンティティの醸成が必要となっています。

折しも、名古屋市は2010年に「開府400年」という、自らの歴史を見直す大きな契機を迎えました。これらを背景に「名古屋市歴史まちづくり戦略」は、名古屋市における歴史分野に関するまちづくりの基本方針として策定されました。

戦略の目標は、「語りたくなるまち名古屋」の実現です。

市民それぞれが自分たちのまちを見直し、好きになり、誇りを持って身近なまちの歴史について語り合うとともに、名古屋を訪れた方が名古屋の魅力を語ってほしいという思いを込めています。

また目標年次は、次の100年（開府500年）を見据えつつ、おおむね20年後（2030年）に向けた取り組みとしています。

歴史まちづくりの4つの戦略

「名古屋市歴史まちづくり戦略」は、「語りたくなるまち名古屋」の実現に向け、以下の4つの戦略を立てています。

「戦略Ⅰ　尾張名古屋の歴史的骨格の見える化」

「戦略Ⅱ　世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす」

「戦略Ⅲ　身近な歴史に親しむ界隈づくり」

「戦略Ⅳ　地域力で歴史的資源を“まもり・いかし・つなぐ”仕組みづくり」

戦略Ⅰは名古屋のまちの基礎となった名古屋城下と熱田の2つの核と、これを結んだ堀川や本町通、また周辺諸国を結んだ街道といった軸を歴史的骨格として位置づけ、これを活かした取り組みをまとめており、具体的には、熱田界隈の魅力向上や旧東海道沿いに町並みが残る有松地区の町並み保存の強化を進めています。

戦略Ⅱは、明治期以降の名古屋の発展を支えた都市基盤や往時に活躍した人々に関連する歴史的資源や戦災復興のまちづくり資産を活かした取り組みをまとめており、具体的には、名古屋城から徳川園に至る「文化のみち」の推進などを挙げています。

戦略Ⅲは、名古屋市のたどった大きな歴史の流れ以外にも、身近な地域においても異なる時代の多様な歴史的資源が残されており、これを活かした地域まちづくりの視点を提案しております。

戦略Ⅳは、戦略Ⅰ～Ⅲで掲げたまちづくりを支える仕組みづくりについて、まとめています。

「登録・認定制度」「なごや歴まちびと」がスタート

「戦略Ⅳ」では、歴史まちづくりを支える仕組みづくりがまとめられていますが、その仕組みづくりの一つとして、新しいシステムとしてスタートしたものに「身近な歴史的建造物の登録・認定制度」と「なごや歴まちびと」があります。

身近な歴史的建造物は、景観に深みと個性をもたらすとともに、地域を特徴づける重要な役割を果たしています。こうした地域で愛されてきた歴史的建造物を、壊さず、使い続けるため、地域の資産として「登録」「認定」する新たな制度を6月より始めました。「登録」「認定」を通じ、市内の素敵な建物などを多くの人に知ってもらい、それらを大切にしていく気運の醸成につなげていくことを目的としています。

「登録」「認定」された歴史的建造物の所有者から相談があると、景観整備機構から「なごや歴まちびと」が派遣されます。「なごや歴まちびと」は、身近な歴史的建造物の保存・活用についてアドバイスする専門家です。2011年1～6月にかけ、延べ60時間の研修を受けた建築士など25人が「なごや歴まちびと」として景観整備機構（名古屋都市整備公社）に登録されました。

また、「認定」された歴史的建造物については、所有者に対して技術的支援とともに経済的支援制度が設けられています。

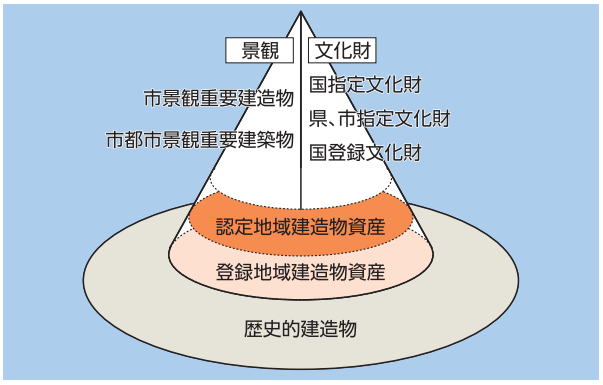
こうした取り組みを通し名古屋市は、市民がまちの歴史に誇りを持ち、語り合いたくなるようなまちづくりを市民と連携しながら進めていこうとしています。

※「身近な歴史的建造物の登録・認定制度」に関する問い合わせ先

- 名古屋市住宅都市局歴史まちづくり推進室
  TEL 052-972-2779
- 景観整備機構　名古屋都市整備公社　景観整備担当
  TEL 052-222-2314

開府300年（1910年）の年に鶴舞公園で開かれた第十回関西府県連合共進会（絵はがき）

名古屋の近代産業を支えた中川運河の松重閘門



歴史的建造物に関する制度イメージ

地域の歴史は、そこに生きる人々のアイデンティティ

名古屋市歴史まちづくり戦略有識者懇話会　座長
名古屋市立大学　名誉教授
瀬口哲夫（せぐち てつお）さん

過去の人を尊敬する、人間を大切にする、住んでいるところに誇りを持つ。これは文化のバロメータです。まちづくりも、今そういう段階に来ています。これまでのまちづくりは、前に進んでいるようで、気がつくと商店街はシャッター街になり、地域の祭りや文化は希薄になるなど、失うものも少なくなかった。そういうまちづくりに違和感を覚え、歴史や伝統を大切に思う人が増えてきました。

日本の中央に位置する名古屋は、昔から国の形勢を左右する重要な役割を果たしてきました。また独自の都市形成や文化の創造など、名古屋の歴史は実に深みがあります。地域の歴史は、そこに住んだ人々の生きざまであり、これからもそこに生きる人々のアイデンティティです。市民の方にはそれを大切にし、活かしていただきたいし、行政にはそれを積極的にサポートすることを望みます。